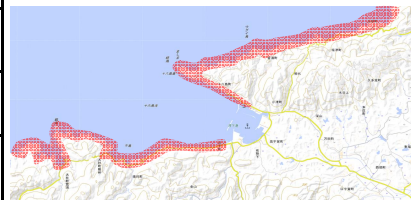



生物・生態サイトカード

通しNo.		A-3		更新日	2025/3/19
サイト名		島根半島とウップルイノリ			
基本情報	区分	<input type="checkbox"/> 動物 <input checked="" type="checkbox"/> 植物			
	生息地	日本海沿岸			
	分類				
	管理団体／保護団体／モニタリング				
	留意点				
サイトの解説	生物・生態	<p>島根半島の海岸の岩場では、冬季に岩のり摘みが行われ、島根の風物詩としてよくマスコミでも紹介される。神話にも登場し、江戸時代には松江藩の幕府への献上品としてもてはやされたこの岩のりは「うっぱるいのり」と呼ばれ、地元でよく親しまれている。この呼び名は、島根半島の中央部に十六島（うっぱるい）と呼ばれる地名があることから、出雲地方特有の呼び名（地方名）と思われる。しかし、ウップルイノリは図鑑にも載っている正式な種名（標準和名）で、1933年に新種として発表された全国に通用する堂々とした名前であることはほとんど知られていない。</p> <p>このノリは、その昔少彦名命（すくなひこなのみこと）が美保関から出雲大社へ向かう途中、十六島で香りの高い海苔があるのを見て、これを岩からはぎ取り出雲大社に土産物として持参したとの言い伝えがある。また、『出雲国風土記』にも記されており、奈良時代や平安時代には朝廷に、江戸時代には将軍家に献上された伝統の一品である。冬季になりノリの採取が始まると、まず松江藩主に献上され、江戸の将軍や他藩の藩主などに贈られた後、一般への販売が許されたとも伝わる。</p> <p>紅藻類の一種で、アサクサノリの仲間であるが、アサクサノリとは異なり細長く帯状に伸び、幅2～3センチ、長さ20～30cmにも伸び出すものもある。淡紅色から藤紫色の光沢のあるノリで、日本海沿岸、北海道、東北地方の太平洋沿岸に広く分布する。このような広い分布を持つわが国を代表する岩のりの名前が、島根県の十六島（うっぱるい）の地名に由来することは注目したい。</p>			
	地形・地質、歴史・文化等	<p>ウップルイノリは、植物界紅藻植物門真正紅藻亜門ウシケノリ目ウシケノリ科アマノリ属に分類され、学名は<i>Porphyra pseudolinearis</i> Ueda,1932として記載されたが、その後の分類学的研究で<i>Pyropia pseudolinearis</i> (Ueda) Kikuchi, Miyata, Hwang & Choi, 2011として扱われている。ウップルイノリ（十六島海苔）はこの種の和名である。模式地は、北海道小樽市高島となっているが、北海道西岸、本州太平洋沿岸北部（千葉県から北）、本州日本海沿岸、朝鮮半島沿岸に広く分布する。島根半島の海岸にも一様に分布しているため、十六島に限られているわけではない。和名の由来については古くからの歴史的な背景があるが、地質学的に見ると興味深い。十六島地域は傾斜した砂岩泥岩の互層でできており、とくに砂岩層が厚くなっている。このような地層が海岸侵食を受けると砂岩層の部分が広く平らになって海面近くに広がる。ウップルイノリは潮間帯上部に着生するため、広い平らな砂岩層は海苔摘みに好都合で収穫しやすい。十六島のこのような特徴は島根半島の他の地域と比べてとくに顕著である。なお、十六島の地名については、平野芳英氏が「古代出雲を歩く」（岩波新書）で今までの説をまとめている。</p>			
写真・図等		 <p>ウップルイノリ</p>			
参考文献		佐藤仁志(2015) 松江市史 通史編1自然環境・原始・古代(松江市史編集委員会): 167-168. 松江市. 佐藤仁志(2011) 出雲北浜誌(出雲北浜誌刊行委員会). 83-85. 北浜自治協会.			